

# ボツワナだより



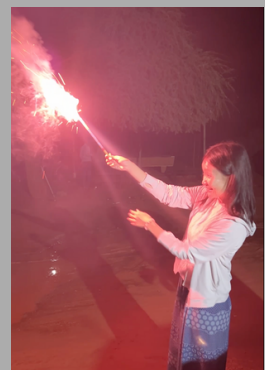
## ▲年越しに花火？

去年は国外に居たので、ボツワナでクリスマスや年末年始を過ごすのは今年が初めてでした。

上の写真は大海日に見た花火です。日本では花火は夏の風物詩ですが、12月が真夏のボツワナではカウントダウンに花火を見ます。今まで訪れたアジアやヨーロッパの国々でも大海日に花火が上がっていたので、そのような国は多いのかもしれませんが。

これらの花火は個人が店舗で買って思い思いに打ち上げています。私も小さな打ち上げ花火と手持ち花火をしました。

カウントダウンまではボツワナ人の友人宅で歌番組を見ながら談笑してただら過ごしていたので、日本と似ていて面白かったです。大海日や新年の食べ物は特になく、いつものボツワナ料理をご馳走になりました。



私は手土産にボツワナカラーのNew Yearケーキを買って行きました。

## クリスマス・年末年始の過ごし方

ボツワナの学校の年度は、1月始まり12月終わりです。なんと小学校は、11月29日に終了し、1月9日まで約1か月半お休みです。

## 人々に聞いたクリスマス・年末年始の過ごし方



田舎へ帰り、山羊や牛一頭を絞めてご馳走を食べたり、ダンスや歌を楽しんだりして過ごすそうです。子ども達に「クリスマスプレゼントはあるの?」と聞くと、「私の家はないよ」と言っている子も居ました。みんな田舎へ帰ってしまうため、首都ハボロネは閑散としていました。

## 私が過ごしたクリスマス



欧米のクリスマスマーケットの文化が伝わっており、あちこちで開かれています。キリスト教徒にとって最も大切なクリスマスに備えて、人々が必要なものを広場に持ち寄って交換したのが起源だそうです。ツリーの飾りや綺麗なケーキが売られていました。



12月25日には知人がパーティーに招いてくれたのですが、ケーキやお酒を買って訪ねると留守で、近所の子もたちと食べるというなんともボツワナらしいハプニングが起こりました。

## 私が過ごした元旦



元旦には、ボツワナにある仏教寺院に行き初詣をしました。スリランカ人が建てたものですが、温かく迎え入れてくれました。スリランカ語でお経を唱えた後、スリランカ料理をご馳走になりました。宗派は違いますが、新年の願いができて満足です。



# 意外と便利？ ボツワナの公共交通機関

## ボツワナの公共交通機関

- ① コンビ
- ② バス
- ③ タクシー
- ④ 飛行機
- ⑤ 鉄道

ボツワナの公共交通機関は大きく分けて5つあります。自家用車を所有しない人も多く、これらは国民の大切な足となっています。物価の高いボツワナですが、公共サービスの料金は安く、車の運転が禁止されている協力隊のお財布にとって優しいです。

### ① コンビ



コンビは15人乗りのハイエース (TOYOTA) で、各エリア内の決められたルートを走っています。このルートを覚えれば、大体の場所へはコンビで向かうことができますが、難点はルートマップがないことです(笑)。

とりあえずコンビを捕まえて「〇〇へ行きますか？」と尋ねると、運転手がお客さんが「行くよ、乗りな！」とか「それはあそこのバス停から出てるよ！」と必ず教えてくれます。走っているコンビを止める時は、片手を地面と並行に挙げます。料金は、距離に関係なく一回の乗車で約70円です。

### ② バス



バスは長距離移動に便利です。1時間先の村までは約250円、6時間先までは約1550円です。車内販売やトイレ休憩もあります。ただしトイレ休憩後の出発時間は決まっておらず、人数を数えずに出発してしまうので、置いていかれないよう気をつけなければなりません。

### 時刻表はどこ？

コンビもバスも時刻表はありません。始発駅では、席が満席になったら出発です。自分が予定していた時間に乗れるかどうかは運次第。道端では、朝の通勤ラッシュ時には15分おきくらいにコンビが来ます。最初は慣れませんでしたでしたが、毎日乗っていたら次第に感覚が掴めてきて、時刻表なしも悪くないと思ってきました。

### ③ タクシー



車体に「TAXI」というプレートがあること以外は、普通車です。色も決まっていません。日本ではタクシーは贅沢な移動手段。ボツワナへ来て、「みんなお金がないはずなのにタクシーは使うんだな」と思っていたら、タクシーはなんと一回の乗車が約80円でした。「乗合タクシー」と言って、同じ方向に行くタクシーを4人の客でシェアするため、安い金額で乗車できます。日本と同じ、乗客1人で乗るタクシーもありますが、日本と比べて料金はかなり安いです。

### ④ 飛行機



ボツワナ国内に空港は4つあります。例えば首都ハボロネから800km離れたマウンまでは1時間半で、料金は1万6千円くらいです。ボツワナにLCCはなく、航空会社は国有の「Air Botswana」一つしかありません。ただ、普通のボツワナ人はバスや自家用車で国の端から端まで移動し、飛行機は滅多に使いません。

### ⑤ 鉄道

ボツワナにはイギリス保護領だった時代に建設された線路がありますが、これは今は貨物専用で乗車はできません。線路を見つけて駅はどこにあるのだろうとワクワクしながら探しましたが、残念です。

## これ、何肉！？



答えは・・・



上がキリンで、下がインパラという鹿のような草食動物です。ボツワナのスーパーには、時々このように野生動物の肉が売られています。ボツワナには国有の密猟区、つまり狩りをしてはいけない動物の保護区があります。野生動物を守る区域ですが、同時に増えすぎた種を殺して数をコントロールしているそうです。また、娯楽として狩を楽しむための専用の私

有地もあり、高齢の動物等に限って殺すことが許されているそうです。そういった背景で殺された動物の肉がスーパーに流れてきます。気になるお味ですが、どちらも噛み切れにくい硬かったです！肉食動物に食べられないように鍛え上げられた筋肉は無駄な脂肪がないんだなと感心しました。他にもゾウやライオン、シマウマ等も売られています。